

事例26

< 事例概要 >

迷入

- ① 70 歳代、くも膜下出血後遷延性意識障害、四肢麻痺、経口摂取困難、誤嚥性肺炎の患者。
- ② 栄養管理、末梢血管確保困難のため、中心静脈カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 18.6 kg/m²。脱水あり。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 右大腿静脈より超音波を使用せず穿刺。カテーテルは15 cm以上進まず、その位置で固定。逆血は確認しなかったがX線でカテーテル先端の位置を確認し、高カロリー輸液を開始。翌日、チアノーゼ、血圧70 mmHg台へ低下あり、敗血症性ショックと診断。カテーテルより昇圧剤を開始するが、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）測定不可となり、心肺停止。CT で腹腔内に腹水または出血を認め、その約1 時間後に死亡。CT でカテーテルが下腹壁静脈から腹腔内に迷入している可能性が判明した。
- ⑤ 死因は、肺炎および尿路感染による敗血症性ショック（推定）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。